



畑作・野菜・花き生産情報 第3号

令和5年6月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- ◎ 小麦の刈取適期は平年より早い6月末からとなる見込みです。適期収穫に努めよう。
- ◎ にんにくの収穫期は平年より早まっています。適期収穫及び適正乾燥に努め、高品質なにんにくに仕上げよう。
- ◎ 高品質な花きの生産に向けて換気や遮光をこまめに行うなど、施設内の温湿度管理を徹底するとともに、病害虫の早期発見・早期防除に努めよう。

畑作物

1 小麦

(1) 生育状況

- ア 開花期は、平年より5～11日早かった。
- イ 黒石市では、稈長は平年よりかなり短く、穂長はかなり長く、穂数は大幅に少なくなっている。
六戸町では、稈長は平年並、穂長は平年より短く、穂数はかなり少なくなっている。

表－1 小麦の出穂期、開花期、成熟期

場所	年次	ネバリゴシ			キタカミコムギ		
		出穂期 (月日)	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	出穂期 (月日)	開花期 (月日)	成熟期 (月日)
農林総合 研究所 (黒石市)	本年	5/13	5/20	(6/28)	5/17	5/23	(7/5)
	平年差	(7日早)	(7日早)	(3日早)	(5日早)	(6日早)	(3日早)
	平年	5/20	5/27	7/1	5/22	5/29	7/8
	前年	5/16	5/22	6/30	5/18	5/23	7/4
野菜 研究所 (六戸町)	本年	5/10	5/19	(6/29)	/		
	平年差	(10日早)	(10日早)	(9日早)			
	平年	5/20	5/29	7/8			
	前年	5/18	5/26	7/5			
つがる市 (木造)	本年	5/10	5/20	(6/26)	5/8	5/19	(6/29)
	平年差	(9日早)	(8日早)	(9日早)	(13日早)	(11日早)	(10日早)
	平年	5/19	5/28	7/5	5/21	5/30	7/9
	前年	5/18	5/27	7/4	5/20	5/26	7/7
十和田市 (相坂)	本年	5/16	5/24	(7/3)	/		
	平年差	(6日早)	(5日早)	(5日早)			
	平年	5/22	5/29	7/8			
	前年	5/17	5/24	7/4			

注) ①農林総合研究所、野菜研究所が作況試験ほ、つがる市(木造)、十和田市(相坂)が生育観測ほの調査成績
②平年値は、農林総合研究所の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」が過去17か年、野菜研究所の「ネバリゴシ」が過去14か年(23年産(出芽不良)を除く)、つがる市(木造)の「ネバリゴシ」が過去20か年、十和田市(相坂)の「ネバリゴシ」が過去21か年、つがる市(木造)の「キタカミコムギ」が過去27か年の平均値

③成熟期の本年値は、出穂期以降の積算温度（「ネバリゴシ」：830℃、「キタカミコムギ」：900℃）を基準に推定した目安で、それぞれ近傍のアメダス（黒石市は黒石、六戸町は三沢、つがる市は五所川原、十和田市は十和田）から計算（6/19現在）

表－2 小麦の生育状況（6月10日）

場所	年次	ネバリゴシ			キタカミコムギ		
		稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)
農林総合 研究所 (黒石市)	本年	65.0	8.2	321	78.6	9.4	234
	平年比	(88%)	(108%)	(77%)	(93%)	(108%)	(68%)
	平年	73.7	7.6	419	84.8	8.7	342
	前年	67.8	7.5	474	77.0	8.8	328
野菜 研究所 (六戸町)	本年	92.2	7.8	583	/		
	平年比	(100%)	(93%)	(83%)			
	平年	92.3	8.4	699			
	前年	89.8	8.6	631			

注) 本年の調査日は、農林総合研究所が6月9日、野菜研究所が6月8日

(2) 今後の農作業の留意点

ア 刈取準備

(ア) 適期に刈取りできるようコンバインや乾燥調製施設を準備する。

(イ) 効率的に収穫作業を行うため、ほ場の排水対策を徹底する。

イ 適期刈取

(ア) 刈取適期は6月末からとなる見込みである。穂数の少ないほ場ではこれより早まることも予想されるので、よく観察し、収穫が遅れないようにする。

(イ) 刈取りは、ほ場毎の成熟状況を確認して、子実水分が30%以下（穂を手でもむと脱粒しやすく、子実が爪で割れにくい状態）になった頃をめどに行う。

(ウ) 刈取りが早すぎると未熟粒が多くなり、遅すぎると黒かび粒や穂発芽の発生により品質が低下するので適期に収穫する。

(エ) 倒伏や穂発芽した小麦は、仕分けを行い、未熟粒や被害粒が混入しないようにする。

(オ) 農産物検査法の検査規格における赤かび粒混入限度は、0.0%であるので、収穫前に赤かび病の発生状況を把握し、り病粒混入が懸念されるほ場では、発生のないほ場と仕分けして、収穫・乾燥を行う。

表－3 積算温度による刈取適期の見込み

品種 地域	ネバリゴシ		キタカミコムギ		ゆきちから	
	出穂期	刈取適期	出穂期	刈取適期	出穂期	刈取適期
中 南	5/13	6/28～7/3	5/17	7/5～8	5/13	6/29
西 北	5/10	6/26～7/1	5/8	6/29～7/3	-	-
上 北	5/16	7/3～8	-	-	-	-

注) ①出穂期以降の積算温度（「ネバリゴシ」：830～950℃、「キタカミコムギ」：900～1,000℃、「ゆきちから」：840～867℃）を基準に推定した目安で、それぞれ近傍のアメダス（中南は黒石、西北は五所川原、上北は十和田）から計算（6/19現在）

②出穂期は、表－1及び中南地域からの聞き取り

2 大豆

(1) 生育状況

出芽期は、黒石市は平年並、六戸町は平年より2日早かった。

表-4 大豆の出芽状況

場 所	年 次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)
農林総合 研究所 (黒石市)	本 年	5/25	6/5
	(平年差)	(±0日)	(±0日)
	平 年	5/25	6/5
前 年	5/25	6/5	
野菜研究所 (六戸町)	本 年	5/15	5/23
	(平年差)	(±0日)	(2日早)
	平 年	5/15	5/25
前 年	5/16	5/25	

注) ①品種は「おおすず」

②農林総合研究所、野菜研究所の作況試験ほの調査成績

③平年値は、農林総合研究所が過去17か年（令和元年除く）、野菜研究所が過去16か年の平均値

(2) 今後の農作業の留意点

- ア 中耕・培土は、1回目は本葉2～3枚の展開期に初生葉のつけ根まで、2回目は本葉5～6枚の展開期に第1本葉のつけ根まで土寄せする。
- イ アブラムシ類や食葉性害虫の適期防除に努める。
- ウ 長雨に備え、明きよを設置するなど排水対策を徹底する。
- エ 難防除雑草ツユクサ多発ほ場では、令和4年度指導参考資料「大豆栽培における難防除雑草ツユクサ多発ほ場の防除対策」を参考に防除対策を実施する。

野 菜

1 にんにく

(1) 生育状況

- ア 地上部は平年並～平年を下回っているが、地下部は平年を大幅に上回っており、生育は早まっている。
- イ 収穫期は、平年より早く、一般ほ場の早いところでは6月10日頃から収穫作業が始まっている。
- ウ 病害虫は、春腐病、さび病が広く発生しており、一部地域で黄斑病やネギコガ幼虫による食害が散見される。

表－５ にんにくの生育状況（6月10日現在）

調査地点	年次	植付期(月日)	りん片分化期(月日)	6月10日					収穫期(月日)	備考
				草丈(cm)	葉数(枚)	茎径(mm)	球径(mm)	球重(g)		
野菜研究所 (六戸町)	本年 (<small>平年差・比</small>)	9/30 (2日早)	4/8 (11日早)	103.1 (103%)	13.4 (105%)	21.6 (107%)	64.1 (108%)	109.6 (126%)	6/30 6/28	透明マルチ
	平年	10/2	4/19	99.8	12.8	20.2	59.3	87.2		
	前年	9/30	4/19	103.0	13.9	21.5	67.2	121.7		
藤崎町 福島	本年 (<small>平年差・比</small>)	9/20 (±0日)	4/13 (12日早)	71.3 (88%)	8.0 (95%)	20.3 (100%)	59.3 (110%)	100.4 (139%)	6/27 6/27	黒マルチ
	平年	9/20	4/25	81.1	8.4	20.2	54.0	72.4		
	前年	9/15	4/24	79.6	8.3	20.0	59.4	84.0		
七戸町 榎林	本年 (<small>平年差・比</small>)	9/29 (3日早)	4/15 (8日早)	75.7 (91%)	6.9 (85%)	16.4 (79%)	54.6 (100%)	85.0 (115%)	6/27 6/21	グリーンマルチ
	平年	10/2	4/23	82.7	8.1	20.8	54.8	74.0		
	前年	9/21	4/16	83.0	7.3	21.6	71.0	126.7		
田子町 日ノ沢	本年 (<small>平年差・比</small>)	10/2 (4日早)	4/10 (12日早)	85.6 (103%)	8.3 (98%)	19.5 (101%)	64.3 (113%)	104.2 (134%)	6/27 6/22	グリーンマルチ
	平年	10/6	4/22	82.8	8.5	19.4	57.0	77.9		
	前年	9/28	4/19	84.1	8.4	20.2	64.9	95.8		

注)①平年：野菜研究所は平成22～令和4年の13か年の平均値

藤崎町は令和2年～令和4年の3か年の平均値（担当農家、マルチの種類が変更となったため参考値）

七戸町は平成8年～令和4年（平成24年を除く）の26か年の平均値

田子町は平成14年～令和4年（平成21年、令和2年を除く）の19か年の平均値

②種子：野菜研究所は福地ホワイト（13～14g）、藤崎町は白玉王（12g前後）、七戸町は白玉王（14g）、田子町は白玉王（10～12g）

③葉数：野菜研究所は抽出葉数、藤崎町、七戸町、田子町は生葉数

④調査日：本年は、野菜研6月8日、各生育観測は6月9日

（2）今後の農作業の留意点

ア 適期収穫

ばんけいぶ
盤茎部とりん片の尻部がほぼ水平となる収穫適期に収穫できるよう、早めに試し掘りを行い確認する。なお、りん片分化期後の積算気温による収穫目安は下表のとおりである。

表－6 りん片分化期後の積算気温による収穫目安

品種	マルチ種	りん片分化期後積算気温（℃）	
		収穫始め	収穫終わり
白玉王	透明	800以上	1,000以下
福地ホワイト	透明・緑	900以上	1,200以下
	黒	1,000以上	

※りん片分化期後の積算気温：りん片分化期翌日から毎日の平均気温を合計したもの。最寄りのアメダスデータを用いる。

イ イモグサレセンチュウの防除対策

（ア）被害の拡大を防止するため、作業は種子ほ場から開始し、ほ場間を移動する際は機械等の洗浄を徹底する。

(イ) イモグサレセンチュウの発生が確認されているほ場では、りん球への進入を抑制するため、①早期収穫、②速やかな根切り、③残さのほ場外への搬出と適切な処分、④速やかな乾燥を行う。

(ウ) なお、種子用のにんにくは、イモグサレセンチュウの発生を必ず確認し、異常が見られた時は、指導機関に診断を依頼する。

[イモグサレセンチュウ被害の確認方法]

根がついたまま、20球程度を網袋に入れて1か月程度自然乾燥させた後、りん片の皮をむいて発根部付近の褐変や腐敗の有無を確認する。

ウ 適正乾燥

(ア) 乾燥用の暖房機の温度設定は35℃とし、煮え症状発生防止のため、にんにく付近の温度が38℃以上にならないよう管理する。

(イ) 適温の乾いた空気が、ムラ無く、十分量にんにくの間を通るようにする。

(ウ) 乾燥の仕上がりは重量が7割程度に減少した頃を目安に、根部をナイフ等で削り、盤茎部に爪がたたないぐらいの硬さであることを確認する。

(エ) 建築用水分計を活用する場合は、重量が7割程度に減少した時の盤茎部の水分含有率10～15%を乾燥仕上がりを目安とする。ただし、テンパリング乾燥の場合は、盤茎部の水分含有率の平均値が20%以下、かつ最高値が30%未満の場合を仕上がり基準とする。

エ 乾燥仕上がり後の管理

乾燥仕上がり後は、出荷や冷蔵庫への入庫までの期間に、水分が戻らないようにシート等で湿気を遮断するほか、一時保管中の温度が高温にならないよう適正に管理する。

2 ながいも

(1) 生育状況等

ア 植付作業は、平年並の4月末頃から始まり、6月中旬に終了した。

イ 病害虫の発生はみられない。

(2) 今後の農作業の留意点

ア 追肥

追肥が遅れると収量や品質低下の原因となるので、開始時期は、つる長のほか、試し掘りにより新しいも長も確認して、適期に行う。

表－7 ながいもの追肥方法

	早植栽培（頂芽付1年子）	普通栽培	
追肥開始時期 の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・植付後60日前後 （6月下旬～7月上旬） ・新しいも長は5cm 前後 ・つる長は150cm 前後 	種いも：子いも	種いも：切いも
		<ul style="list-style-type: none"> ・植付後45～55日頃（7月中旬頃） 	<ul style="list-style-type: none"> ・植付後55～65日頃（7月中下旬頃）
追肥の間隔及び回数	<ul style="list-style-type: none"> ・6月下旬から8月上旬の間に、12～14日間隔で3回 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月中旬から8月中旬の間に、10日程度の間隔で3回 	
1回当たりの追肥量	<ul style="list-style-type: none"> ・10a 当たり窒素成分で5kg以内とする。 		

※ ウイルスフリー種子を使用した場合や地力が高いほ場に作付けした場合は、1回当たりの追肥量を減らす。また、下位節からの側枝の発生が多く、生育が旺盛な場合は3回目の追肥量を減らす。

イ 病害虫の適期防除

- （ア）葉渋病、炭そ病、ナガイモコガ、アブラムシ類の早期発見・早期防除に努める。
- （イ）採種ほ場では、ウイルスの伝搬を防ぐため、10日程度の間隔でアブラムシ類の防除を徹底する。
- （ウ）早植栽培は普通栽培より病害虫の発生時期が早まる傾向があるので、注意する。

表－8 アブラムシ類、ナガイモコガ及び葉渋病の発生時期の目安（月／旬）

栽培法	植付時期	萌芽期	アブラムシ類		ナガイモコガ	葉渋病
			発生初め	発生盛期	幼虫	発生初め
早植栽培	5／上	5／下	5／下	6／中～下	6／中	7／中
普通栽培	5／下	6／下	6／下	7／中	7／中	8／下

ウ 排水対策

- （ア）大雨に備え、明きよを排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。
- （イ）植溝が陥没した場合は、速やかに埋め戻す。

3 春夏にんじん（トンネル栽培）

（1）生育状況

- ア 地上部は平年並、地下部は平年を上回っており、生育は順調である。
- イ 病害虫の発生はみられない。

表－9 春夏にんじんの生育状況（6月10日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	6月10日					備考
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根長 (cm)	根径 (mm)	根重 (g)	
六戸町 上吉田	本年 (<small>平年差・比</small>)	3/15 (2日遅)	57.7 (96%)	8.5 (98%)	23.2 (134%)	39.6 (103%)	116.0 (114%)	透明ポリトンネル
	平年	3/13	60.2	8.7	17.3	38.4	102.2	
	前年	3/11	64.7	9.0	22.0	41.0	130.9	

注) ①平年：平成25年～令和4年の過去10か年の平均値

②品種：彩誉7

③前年の調査地点：六戸町下吉田

④調査日：本年は6月9日

(2) 今後の農作業の留意点

葉の半数以上が地際部まで下がった頃に試し掘りを行い、M、L級が中心になった頃に収穫する。

4 ばれいしょ

(1) 生育状況

ア 5月の乾燥により、草丈、茎数は、平年を下回っているが、生育はおおむね順調である。

イ 着らい期は平年より6日早い5月19日、開花期は平年より5日早い6月3日となった。

ウ 病害虫の発生はみられない。

表－10 ばれいしょの生育状況（6月10日現在）

調査地点	年次	植付期 (月日)	萌芽期 (月日)	着らい期 (月日)	開花期 (月日)	6月10日	
						草丈 (cm)	茎数 (本)
三沢市 三沢	本年 (<small>平年差・比</small>)	3/25 (8日早)	4/24 (10日早)	5/19 (6日早)	6/3 (5日早)	56.0 (86%)	2.0 (83%)
	平年	4/2	5/4	5/25	6/8	65.0	2.4
	前年	4/3	5/3	5/24	6/6	57.5	1.7

注) ①平年：平成25年～令和4年の10か年の平均値

②品種：メイクイン

③調査日：本年は6月9日

(2) 今後の農作業の留意点

ア 疫病の防除を徹底する。

イ 早出し栽培（マルチ栽培）では6月下旬頃に試し掘りを行い、いもの肥大を確かめて収穫期を決める。また、収穫の5～7日前に茎葉を刈り取るなどして、いもの表皮のコルク化を進めてから収穫する。

ウ 日中の葉の萎れや下葉の黄化等の症状を発見した場合は、ジャガイモシストセンチュウによる被害が疑われるため、指導機関に診断を依頼する。

5 ごぼう

(1) 生育状況

ア は種期が平年より3日早く、草丈、葉数ともに平年を大幅に上回っており、生育は順調である。

イ 病害虫の発生は、みられない。

表-11 ごぼうの生育状況（6月10日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	6月10日	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市 三沢	本年	4/28	14.9	2.7
	(平年差・比)	3日早	(145%)	(150%)
	平年	5/1	10.3	1.8
	前年	5/11	7.6	0.7

注) ①平年：平成25年～令和4年の10か年の平均値

②品種：柳川理想

③調査日：本年は6月9日

(2) 今後の農作業の留意点

除草、病害虫防除を適期に行う。

6 メロン

(1) 生育状況

ア トンネル栽培（4月下旬定植）では、主づる長は平年並、主づる葉数は平年をやや下回っているが、生育は順調である。

イ 着果節位の開花は順調である。

ウ 病害虫の発生はみられない。

表-12 メロンの生育状況（6月10日現在）

調査地点	年次	定植期 (月日)	6月10日	
			主づる長 (cm)	主づる葉数 (枚)
つがる市 木造	本年	4/28	170.9	20.3
	(平年差・比)	(6日早)	(104%)	(92%)
	平年	5/4	164.4	22.0
	前年	4/28	170.0	22.9

注) ①平年：平成26年～令和4年の9か年の平均値

②品種：タカミ（台木：スーパーエースG）

③調査日：本年は6月7日

(2) 今後の農作業の留意点

ア 生育促進のため、トンネルの開閉をこまめに行うなど温度管理を徹底する。特に交配期に12℃以下の低温が続くと着果率が劣るので、最低気温15℃前後を目安に管理する。

イ 交配はミツバチ等訪花昆虫を利用するか人工交配を行う。また、曇雨天が続く場

合はホルモン処理を併用する。

ウ アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類の発生に注意し、適期に防除を行う。

7 ねぎ

(1) 生育状況

ア 3月中旬定植は、草丈は平年を下回り、茎径は平年並、4月上旬定植は、草丈、茎径ともに平年を下回っているが、生育はおおむね順調である。

イ 病害は、さび病、虫害は、ネギコガ、アザミウマ類の被害が散見される。

表-13 ねぎの生育状況（6月10日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	定植期 (月日)	6月10日	
				草丈 (cm)	茎径 (mm)
八戸市 是川	本年 (平年差・比)	11/26 (42日早)	3/19 (7日早)	60.9 (87%)	16.0 (101%)
	平年	1/7	3/26	70.1	15.9
	前年	11/26	3/26	71.7	15.9
十和田市 洞内	本年 (平年差・比)	1/20 (10日早)	4/1 (16日早)	43.2 (77%)	9.0 (83%)
	平年	1/30	4/17	55.8	10.9
	前年	1/20	4/11	54.1	12.1

注) ①平年：八戸市は平成15年～令和4年の20か年の平均値

十和田市は令和2年～令和4年の3か年の平均値

②品種：夏扇パワー

③調査日：本年は6月9日

(2) 今後の農作業の留意点

ア 草勢の維持に努め、生育に応じて適期に培土や追肥を行う。

イ さび病、べと病が蔓延しないよう防除を徹底する。

ウ ネギコガ、アザミウマ類、ハモグリバエ類の発生に注意し、適期に防除を行う。

花 き

1 夏秋ギク

(1) 生育状況

生育はおおむね順調である。

虫害は、一部でアブラムシ類やハモグリバエ類の発生がみられるものの、病害の発生はみられない。

表-14 夏秋ギクの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	品種名	定植期	草丈 (cm)	葉数 (枚)	備 考
新 郷 村	本年 (平年比)	精の一世	4月17日 (2日早)	62.6 (100%)	32.1 (107%)	1本仕立て
	平年	精の一世	4月19日	62.9	30.1	1本仕立て
	前年	精の一世	4月21日	64.4	31.0	1本仕立て
五所川原市	本年 (平年比)	岩の白扇	4月20日 (5日遅)	57.7 (102%)	17.9 (104%)	2本仕立て
	平年	岩の白扇	4月15日	56.5	17.2	2本仕立て
	前年	岩の白扇	4月22日	48.1	15.0	2本仕立て

注) 平年は新郷村が平成26年～令和4年の9か年、五所川原市が平成30年～令和4年の5か年の平均値だが、新郷村は令和2年、令和3年に担当農家の変更となったため、参考値となる。

調査日は新郷村が6月9日、五所川原市が6月8日。

(2) 今後の作業

ア 芽かき・つぼみかき

発らいと前後して側枝（わき芽）が伸び始め、大きなつぼみの周りにも小さなつぼみができるので、品質向上のため早めに除去する。

イ ビーナイン処理（施設栽培のみ）

花首の伸長を抑えるため、発らい期～摘らい期にビーナイン顆粒水溶剤等を散布し、品質の向上に努める。

ウ 病害虫防除

多湿条件により、白さび病や灰色かび病が発生しやすくなるため、こまめに換気するとともに予防に努める。

高温乾燥条件により、アブラムシ類、ハモグリバエ類、ハダニ類、アザミウマ類等の発生が多くなるので、早期発見・早期防除に努める。

2 秋ギク

(1) 今後の作業

ア 定植

(ア) 10月出荷の作型は6月下旬～7月上旬を目安に定植する。

(イ) 土壌pHの矯正及び基肥の施用は定植2週間前までに行い、土に十分なじませておく。

(ウ) 水分不足は生育の遅れを招くので、あらかじめ十分にかん水しておく。

(エ) 移植栽培の場合は、挿し芽を定植2週間前に行い、1～2cm程度発根した苗を定植する。

イ 定植後の管理

(ア) 定植後は、軽やかにかん水して活着を促進する。

(イ) 日中は25℃以上にならないように管理する。

(ウ) 摘心を実施する場合は、苗が活着してから行う。

(エ) ほ場周辺の雑草は病害虫の発生源となるので、繁茂させないように除草・防草に努める。

ウ 病虫害防除

夏秋ギクに準ずる。

3 トルコギキョウ

(1) 生育状況

生育は順調で、全般に病虫害の発生は少ない。

表-15 トルコギキョウの生育状況（6月10日現在）

場 所	年次	品種名	定植期	草丈 (cm)	節数 (節)
青 森 市	本年	ひこ星	4月6日	23.3	11.1
	前年	北斗星	4月13日	10.4	8.3
黒 石 市	本年	ボンボヤージュスイートピンク	5月5日	8.9	8.8
	前年	セレブリッチホワイト	4月27日	23.1	9.6

注) ①青森市の平年値：令和元年から品種が変更されたため、平年値なし

②黒石市の平年値：前年から担当農家に変更されたため、平年値なし

③調査日：青森市、黒石市ともに6月9日

(2) 今後の作業

ア かん水

発らいまでは根の張りを良くするため、乾湿の差をつけて管理する。

イ 温度管理

換気や循環扇、寒冷しゃ等を活用し、日中25℃以下、夜間15℃を目標に管理する。

ウ 側枝等の整理

不要な側枝は早めに摘み取る。また、頂花らい（1番花）は、早めに除去し、上位節から発生する分枝の伸長を促す。

エ 病虫害防除等

今後、灰色かび病やアザミウマ類が多発しやすい時期となるので、早期発見・早期防除に努める。

チップバーンの発生しやすい品種やほ場では、必要に応じてカルシウム剤を葉面散布する。

オ 短茎開花対策

(ア) 9～10月出荷の作型では、定植期が高温長日となるため、短茎で前進開花しやすいが、これを避ける方法として「短日処理」が有効である。

(イ) また、「短日処理」より処理効果はやや劣るが、処理方法が簡易な「遮光処理」がある。

(ウ) ただし、品種によって効果は異なるので、詳細については指導機関に相談する。

【短日処理】

定植から30日程度、夕方5時から翌朝8時まで100%遮光資材でトンネル被覆し、9時間日長とする。

【遮光処理】

定植から30日程度、遮光率40%程度の白寒冷しゃを展張する（ハウスの内張り、外張り、どちらでもよい）。なお、曇天、雨天で低日照が続く際には、品質が低下する場合もあるので注意する。また、30日程度の遮光後は必ず寒冷しゃを除去する。

畑作・野菜・花き生産情報第4号は令和5年7月20日発行の予定です。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～

土壌診断に基づいた適正施肥や土壌改良は、施肥コストの低減にもつながります。緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壌環境づくりを心がけましょう！
効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！

◎令和5年度青森県農薬危害防止運動展開中（6月1日～8月31日）

- 1 使用する際は、必ず最新の登録内容を確認し、農薬は適正に使用しましょう。
 - 農林水産省「農薬情報」
https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/
 - 農林水産省「農薬登録情報提供システム」
<https://pesticide.maff.go.jp/>
- 2 飛散防止に努め、住宅地等の近隣で使用する際は、事前に周囲に知らせましょう。
- 3 クロルピクリン剤など土壌くん煙剤を使用する際は、必ず厚さ0.03mm以上又は難透過性の被覆資材で被覆しましょう。
- 4 市販の除草剤には、農作物等の栽培管理に使用できない「非農耕地専用除草剤」があるので、注意しましょう。
- 5 農薬は使い切りを徹底し、河川等には絶対に捨ててはいけません。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

- 1 栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。
- 2 家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。
家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が3日以上続いている状態が必要です。
堆肥の製造工程では、この温度条件を確認しましょう。
- 3 家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は2か月、土壌に近い野菜は4か月空けましょう。
- 4 農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。
※ 野菜の衛生管理指針、家畜ふん堆肥の生産・利用の注意点はこちら
→https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/yasai_eiseikanri.html



◎備えあれば、憂いなし！ 農業保険を活用しましょう！

自然災害や価格下落など、農業経営を取り巻く様々なリスクに備えるため、自分の経営にあった農業保険（国などが掛金の一部を補助する公的保険制度）を活用しましょう。

- 1 自然災害リスクをカバーしたい方
農業共済（農作物共済・畑作物共済・園芸施設共済）は、全ての農業者を対象に、米、麦、畑作物、農業用ハウスなどが自然災害によって受ける損失を補償します。
※ナラシ対策や野菜価格安定制度等を利用することもできます。
- 2 様々なリスクをカバーしたい方
収入保険は、青色申告を行っている農業者を対象に、自然災害や価格低下だけではなく、農業者の経営努力では避けられない収入減少を広く補償します。

◎野菜価格安定制度を利用している野菜生産者の皆様へ

現在、当分の間の特例として、初めて収入保険に加入される方は、収入保険と野菜価格安定制度を同時利用（2年間）することができます。

※ 詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

◎農作業事故と熱中症にご注意ください！

農業は死亡事故の発生率が高い産業であることを御存知ですか？

令和3年の人口10万人当たりの事故による死亡者数は、全ての産業では1.3人ですが、農業では10.5人と多くなっています。

また、これからの暑い季節は、農作業中に熱中症になる人が増えてきますので、体調や周囲の状況を確認し、安全な農作業に努めましょう。

<農作業安全のポイント>

- 1 作業環境に危険な箇所がないか事前に確認し、改善・整備を行いましょ。う。
 - 2 日中の気温の高い時間帯を避けて作業を行うほか、水分や塩分の補給、こまめな休憩を取りながら、無理のない作業を心掛けましょ。う。
 - 3 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼び掛け合うとともに、万一の事故に備えて、労災保険や農機具共済などの保険に加入ましょ。う。
-

連絡先	農産園芸課
	稲作・畑作振興グループ
県庁内線	5073
直通	017-734-9480
	野菜・花き振興グループ
県庁内線	5076
直通	017-734-9485
